

「北海道釧路・陵高等学校創立八十周年・  
定時制七十周年並びに校舎改築落成事業  
協賛会」について



湖陵同窓会々々長  
記念事業協賛会々々長  
長 内 宏

新入湖陵ヶ丘で



学 校 長 森 正 徳

本年は湖陵高校並びに我が同窓  
会として誠に意義深い年となります。

ご承知の如く昨春秋、緑ヶ岡に  
完成した、湖陵ギャラリー、湖陵  
文庫を備える素晴らしい新校舎は  
正に二十一世紀への躍進を物語る  
にふさわしいものとなりました。

この機会に名門湖陵の一層の充  
実が期待され表題の協賛事業が発  
案されたのは蓋し当然の成行であ  
りました。一昨年その母体組織が  
結成され、不肖私が協賛会長とし  
て推挙され、学校、PTA、後援会、同  
窓会が一丸となり各委員の真摯な  
ご奉仕と、市内外の多くのご好意  
とご賛同を戴きその目標達成を目  
指して参りました。ここに改めて  
厚くお礼申し上げる次第であります。

恵まれた環境の中で学ぶ後輩生  
徒諸君には郷土あげての一層の期  
待がよせられます。

誠・愛・勇の校訓と、二万を越す  
卒業生によって培われたよき伝統  
に、若く熱き血潮が吹き込まれる  
時、母校の校風はいやが上にも練  
磨され名実共に全道に誇る道東の  
雄として益々発展するであろう事  
を心より祈念するものであります。

さて、記念事業については、左記  
にその概要をお知らせして大方の  
ご理解、ご協力を心よりお願い申し  
上げる次第です。

- 一、記念式典及び祝賀会
- 一、記念誌発行
- 一、教育環境整備充実及び部活  
助成事業
- (イ)湖陵ギャラリーの開設
- (ロ)体育館及び多目的教室整備
- (ハ)部室の建設
- (ニ)楽器購入補充
- (ホ)体育文化部活動助成

- 一、事業資金 六五〇〇万円
- 積立金 二四〇〇万円
- 寄付金 四一〇〇万円

付記

尚、記念誌は釧中開校以来の歴  
史を写真集として編集されたもの  
でその時々の中、湖陵の学舎の  
思い出とそこに生きた生徒の姿を  
回顧する貴重なものとなります。

記念式典当日に間に合わせるべく目  
下完成を急いでおりますが同窓会と  
しても相応部数を確保し、希望者に  
頒布する予定であります。お問合  
せ、お申込みは同窓会事務局まで。

いま、湖陵高校は活気に満ち満  
ちております。本年三月には東京  
大学三名(含過年度卒二名)をは  
じめとして、国公立大学一六〇名、  
その他有名私立大学に合格者を多  
数だすすばらしい実績を卒業生は  
残してくれました。それに続くべ  
く、約一三三〇名の在校生は、全  
道一を誇る新しい校舎で日々学習  
に励んでおります。また過日行な  
われた高体連の大会では各部が善  
戦し、全道大会に出場したチーム  
も多く、特にハンドボール(女子)  
部は全国大会へ駒を進める等の活  
躍ぶりです。他の部もこれを自分  
のことのように喜びまた刺激され、  
放課後のグラウンドで一層若い汗を  
流している姿が見受けられる昨今  
です。高文連・高野連の各部も同  
様であり、勿論これらを指導する  
教職員も指導に一段と力が加わり、  
緑ヶ岡の学府は将に燃え立たと  
思っていると言っても過言ではない  
と思えます。

とき恰も平成三年。皆様方の母  
校は全日制八十周年・定時制七十  
周年記念式典を、来たる九月二十  
九日に迎えようとしております。

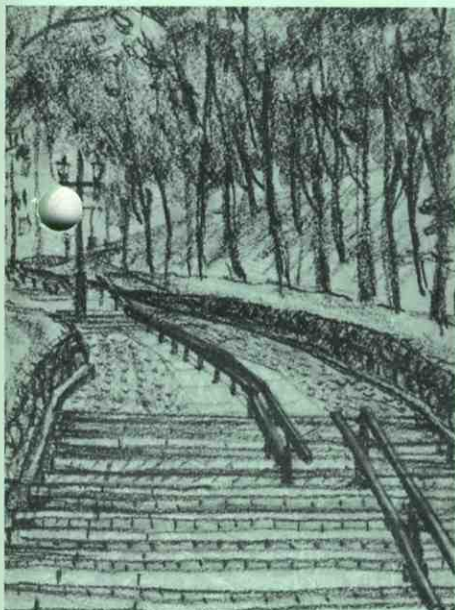
すでにご承知のとおり、本校は  
富士見の校舎より春採湖を眺望で  
きる「湖陵」の名にふさわしいこ  
こ緑ヶ岡に移転して十ヶ月が経過  
いたしました。が、まだ未完でした  
前庭の工事もいよいよ着手され、  
八月中には完成の予定です。また、  
校舎前の道路の拡幅工事も現在進  
行中であり、式典までには全ての  
関連工事が終了の予定です。恐ら  
く式典当日には、すばらしい「新  
湖陵」の全景を見ていただくこと  
ができると思っております。

これに至るまでには色々の曲折  
があり、同窓会の皆様にはその度  
ごとに貴重なご助言とご支援をい  
ただきました。ただただ感謝の念  
でいっぱいでございます。深くお  
礼申し上げます。加えて厚顔では  
ありませんが、式典をも含めまして  
の今後のご援助を衷心よりお願い  
申し上げます。

「器」と「力」の「新湖陵」が着  
実に躍進しつつあります。一層の  
お力添えをお願いいたします。

# 陵 旧校舎の思い出

80年の歳月のなかで、2万人を越す卒業生が釧中・湖陵の門を巣立った。いまでも、思いはそれぞれに、厳しい自然とおおらかな風土のなかから多くの真摯な若人を輩出している。釧中・湖陵に栄光あり。明日に飛翔する若人に栄光あれ。



◎ 思い出がちりばめられた旧校舎周辺



◎ 北玄関  
冬の厳しさをまともに感じた北玄関。



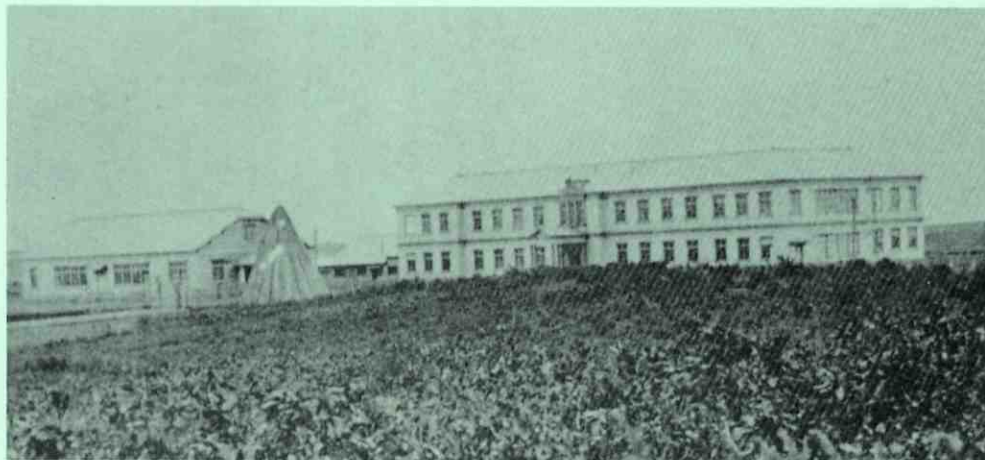
#### 校章の由来 ■ 昭和23年制定

全校生徒から図案を募集。職員室前の壁に貼り出され、立山昌司のが採用となる。熊笹6葉を3葉とし、「高」の文字を中に入れたもの。

旧制1高の柏3葉にあやかり、上下逆にした。それに久本春雄画伯が釧路の「いわれ」である腕輪を加えた。

「釧中物語」より

# なつかしき釧中・湖



◎ 大正3年当時の校舎であたりは熊笹だらけだったという

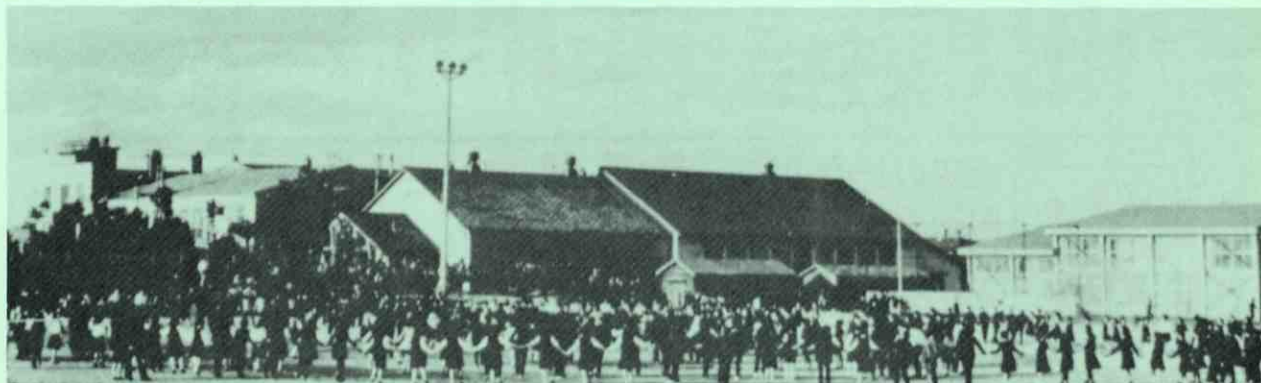
◎ 川代 住吉 匡校長の揮毫より

「大望無私」(昭和30～35年在職)



◎ アイスホッケー部全国優勝報告会  
(昭和35年)

◎ オクラホマやマイムマイムは私達の青春の歌 (昭和49年)





釧中32期 奥田達也

勤労作業

第二次世界大戦の末期に入学、  
中学二年生になってから、敗戦に  
なるまで最下級生として泊掛け作  
業へ動員された釧中三十三期一釧  
路高校二期生の青春譜。

それを彼等の同期会報『笹ノ  
児』から、後藤史郎（市立札幌病  
院）の思い出により紹介しよう。

西春別川幻想

昭和二十年五月、北国は早春  
であった。釧路中学の二年生、  
紅顔の少年数十名は、汽車を降  
りると、駅前待っていた陸軍  
のトラックに乗せられ、方角も  
わからぬ道をひたすら走った。  
道路の石をトラックが踏んづけ  
て揺れる度に、尻が痛んだ。原  
野の中の一本道が、直すぐに地  
平線の彼方に没するようにのび  
てゆき、その空に赤い夕陽があ  
ったように覚えているのは、感  
傷であろうか。年月を経るにし  
たがい、その夕陽は大きくなり、  
赤さを増すのである。

空を飛んだ  
動員された 釧中33期生  
できぬ奴は、斬る！

金網は肩にずしりと喰い込み、  
肩は赤く腫れた。荷くずれを起  
こすと、後続のトロは進めない。  
事故のトロをレールからはずし、  
残りのトロは行く。はげれたト

口は積みなおす。

次第に遠く小さくなってゆく  
仲間達のトロを見送りながら、  
泣きたいような気分で顔を見合  
わせて、やおら、負けてなるか  
と、気をとりなおすのであった。  
難所があった。

丘を登るのである。せいぜい  
と喘ぎながらトロを押し、丘の  
頂上に達すると、今度は下りで  
ある。下りになるとトロは独り  
で走る。走り出す途端、押してい  
た数人は一斉に金網に跳び乗る  
のである。加速度がつく。丘を下  
りながらレールは左にカーブし、  
降りきった所に急カーブがあり、  
ガクン／＼と通過するまでがスリ  
ルがあった。通過すると、平ら  
なレールの上をトロは徐走し、  
ホツとしてその日のアクセント  
は終わるのである。後続のトロ  
は丘の頂上で前のトロが急カー  
ブを通過するのを待っている。  
通過してから次のトロが行く。  
登るのは苦しく、下るのはアツ  
という間なので、このタイムミ  
ンがまた、丁度あうのであった。

にしがみつく。

いつもと違う！これからどう  
なるんだ？見る見る急カーブが  
近づき、そして、ガクン／＼とき  
た。誰かが「無事通過ア」とい  
う声は何となくのんびりと、遠  
くの方にきこえたように思う。

自分はレールの間の土の上か  
ら、何故かあわてて、起き上が  
っている所であり、周囲には、  
仲間が、やはり起き上がるよう  
としているのが目の端に映った。  
どうしたんだ？一体何が起こっ  
たんだ？と呆気にとられながら  
思った。  
後続していたトロの奴にきく  
と、こうである。  
頂上まで漸やくトロを押しあ  
げてみると、前のトロが物すご  
いスピードでぶつとんでゆく。  
や、や、と思う間もなく、急カ  
ーブでトロはひっくり返った。  
トロと金網が土にめり込み、猛  
然と吹きあがる土煙の中を、乗  
っていた数人はバツタのように  
空を飛んだ——という。

あたたかなふれあい



太陽のように  
明るく暖かい真心で  
良い品をより安く  
ご奉仕する

セオチェーン

妹尾商店  
新橋大通1丁目 ☎25-5345

新富士ストア  
新富士駅前 ☎51-3467

愛国ストア  
愛国西3丁目 ☎36-3399

白樺ストア  
白樺台1丁目 ☎91-5423

昭園ストア  
昭北1丁目 ☎51-8853

さつぼろ地下街オーロラタウン  
ギフトディップ

ペルソナ

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●

ステーキハウス アポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023  
営業時間/AM11:00~PM9:00

# バッタのように 中学2年で泊りがけ 全員敵と刺し違える。

この期の永田哲朗（出版ビジネス）は上級生の暴力に反抗否定し「二年上の上級生どもにずいぶん殴られました。上級生という権威によってほんのちよっとした言動をとらえ下級生を制裁する。私の権威とか権力への憎悪と反抗はこのとき根ざしたものだ」という。

昭和二十年八月の幻想

後藤史郎

一本の細い砂利道が原野を真直

ぐに走っていた。その道は遙かな地平線へと消えていき、彼方には空だけがあった。振り返ると、そこにも、道の彼方に空だけがあった。それ程その道は一直線であった。

その砂利道の両側は柔らかい草地で、まばらに木が生えていた。その草を剥がして土を掘り、その下に砂利を敷きつめて固め、その上に、又剥がした草をかぶせる。

するとどうなるのか？空の上から見ると、それは一本の細い田舎道にしか見えぬ。だが、その両側の草地は固まっており、爆撃機くらいは発着できる滑走路にしようというのだった。

（現実には、この滑走路に一式陸攻が二機おりたち、翌日又いずこともなく飛び去ったのだが、それはあたかも八月十七日のことであつたと思う。隙をみて、二三人の友と、機首の銃座にもぐり込み、叱られた記憶がある。）土を掘り、モッコをかついで土を運んだ。

ある日、グラマンの空襲があつた。俺達が草に伏せている空を、金属的なキーンという爆音が越えていった。

日没となり、みなは天幕に帰

ってきた。だが、日は暮れたというのに、森の奥の南の地平線が、いつまでも薄明るい赤い色が消えないのであつた。それは、ゆらゆらと微かにゆらめき、黒い森のなかでは不気味であつた。上官が来て「速やかに就寝せよ。私語を禁ずる」と言つた。だが、忽ち話は伝わつた。鉦路は空襲を受けて全滅した。あれは、鉦路の町が夜空を焦がして燃えている炎なのだ。

もしかして、多分、いつの日か俺が鉦路に帰ることがあつても、そこには、親も兄弟も、もう誰もいないのか——隣に寝ている友の、筋肉の硬直が伝わってきた。もう一度あのゆらめきを見たいと思つたが、そうもいかぬまま眠つたようであつた。

それでも表面は変わらぬ勤労作業が続いてはいたが、幾週かたつたある日の朝であつた。「本日は、作業にいかなくてもよい。待機せよ」

「え？何故？どうして？」まあいいや。何とも拍子抜けした気分、始めは、シャツを脱いで、縫い目の裏からシラミの親玉を捕つては、フキの葉にのせて競走させたりして遊んでいた。

……が、どうも司令部のあたりから異様な雰囲気だだよつてくる。トゲトゲとあわただしく、ウワづつている。そのうち、日本が敗けたのだという噂が聞こえてきた。そんなバカなノ——と思つたが、頼りない不安感が、霧のように心を乱すのだつた。樹々の緑の葉に陽があたり、バカに白く光る。蟬がジイジイとなく。毎日ないている蟬だから気にもとめなかつたが、今日はどうもおかしい。

午後になつた。広場に整列した。いつも優しいと思つていた若い将校が、頬をヒクヒクさせながら何か叫んだ。「我々は、全員敵と刺し違える。できぬ奴は、又、ここで斬る！」軍刀をギラツと抜き、振り回したようだった。

何かわからぬが、やはりとてもないことが起こつたらしい。まさか、あの噂はもしかして、ほんとうなのか？

俺たちは、凝つと立ちつくすだけだつた。風が吹くと葉がさやさやと鳴り、涼しかった。川のせせらぎの音はいつもと変わらなかつた。

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

鉦路パシフィックホテル

中村 隆(鉦中27期)

鉦路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811

れんが屋★AM11:00～PM11:00

トロイカ★AM 8:00～PM11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

# 当番期紹介

(湖陵高校19期) 島本幸一

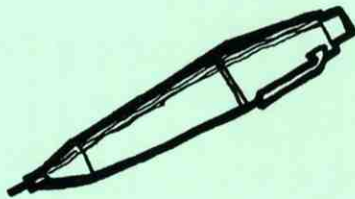


湖陵高校を卒業して早や二〇有  
余年の月日が流れてしまった。  
あの頃、まだ紅顔の美少年だっ  
たあいつ、化学が、いつも赤点だっ  
たあいつも、じき冬だと言うのに  
ゲタを履いていた変わり者、ニキ  
ビ面の汗臭いあいつも、ラッパズ  
ボンを履いていたあいつも、ドラ  
ムを叩いていたあいつも、そして  
紺の制服が、何故か以合ったあの  
子も、いかめしい男共の中で負け  
じと頑張ったあの子も、又遅刻常  
習犯のあの子も、今や、オジン、  
オバンと呼ばれる世代となつてし  
まった。一九期幹事会、久振りに  
皆と逢える楽しみより気恥かしさ  
の方が先にたち、出席する事にな  
安を感じないと言ったら嘘になる。

二十三年、二十四年生まれ、第一  
次ベビーブームの真ただ中に生ま  
れ、遠慮しては食い物すらろ  
くにあたらない中で育ってきた為  
か、仲間意識もなかなかのもので  
あり幹事会も結構楽しいものであ  
る。ある時、こんな話になった。  
これぞ一九期、昭和四十二年卒業  
組の想い出、特徴は何だとなつた  
のである。その中の一つが、俺達  
一九期で伝統のうさぎ狩りが、終  
わってしまったと言う今になって  
思えば残念きわまりない話である。  
その昔には、うさぎと大格闘を演  
じ顔はキズだらけ学生服はボロボ  
ロなんて勇者もおつたそうなの。  
そんな行事もラストを演じた我十九  
期の場合、雑木林の中を前進した  
のであるが、集合地点で見た物は  
鉄砲でうたれ雪を真赤な血で染め  
た三羽程の白いうさぎだったと思  
う。

雪原を逃げまどう、うさぎには一  
度もお目に掛かれなかつた。仮に  
今、この伝統的な行事が残ってい  
たら何んと言われているか、き  
つと、生き物を勝手に殺す湖陵の  
バカ学生共、アホ!! で決まり。  
先日、同窓会の寄附金を頂きにあ  
る先輩の会社に伺つた時の事であ  
る。行燈行列、今年は中止だそ  
うだな、なんとか続ける様に努力  
をしろ、そうしたら金は沢山出す  
ぞ”と言われたのである。  
行燈だから：いつかは消えるな  
んて落語の「落ち」にもならない。  
車がふえたから、道路条件が悪いか  
ら、事故がおきてからでは遅いか  
らでは、出来ない事の理由づけ。  
行燈を担ぎグランドに山と積んだ  
行燈に火をつけ、赤く燃える火を  
見ながら友と肩を組み共に唄つた  
校歌「日いずる国の……」そんな  
な中に青春の貴重なページがあ  
る。俺達は、湖陵の学生、そんな  
よそこの……なんて思いながら  
ア……伝統がまた一つ消えて行く  
淋しい限りである。そんな思いを  
胸に秘めながら上の九期の先輩を  
たて、下の二九期に少しは威張り  
ながら我等一九期、実社会と同じ  
中間管理職。企画にプランニング

にと知恵を絞り新校舎落成後初の  
同窓会。ゲームはOKか、旧校舎  
の大理石は小さく割ってラッピン  
グ、会券は、順調に売れているか  
なんて心配をしながら、幹事軍団  
次第に熱が入って来る。久し振りに  
湖陵同窓会に出られた方も多い  
と思う。俺は湖陵、私も湖陵の思い  
を大切に、明日からまた悠々たる  
心で社会で活躍をしようではあり  
ませんか。世の中、確実に私達の  
時代である。



## ゴルフショップ 三 幸

新橋大通 5 - 1

代表 宮本英司

——先輩、後輩よろしく頼みます。湖陵17期——



諸我 正夫 (43期平成3年卒業)

私が釧路市役所に入ってから四ヶ月、すっかり職場の雰囲気にも慣れ、自分の仕事も少しずつこなせるようになってきました。

この四ヶ月の間は、わからないことばかりで夢中でやってきたので、なんだかあつという間に過ぎてしまったような気がします。しかしこの期間でいろいろなことを勉強し、先輩から教えていただき、自分にとって大変良かったと思えました。

私の仕事というのは、市民のプライバシーに関わる様々な情報を取り扱っている、毎日気をつけながら仕事をしなければなりません。それだけに自分の仕事は自分が責任を持ってやらなくてはいいけないなと思います。まだ新人だからわからないといっている何回も同じ失敗をしたり、先輩方に同じ質問をしても許されるという考えはもう終わらせなければならぬと思います。それでもたまには間違っていたことをしたり、大事なことを忘れたりもします。もしそうなった時には、次からは絶対に失敗しな

いように気合いを入れて頑張っています。そしてできるだけ楽しく仕事をできるようにと考えています。毎日の生活を送っています。

今、私が社会人になって一番感じることは、つきあいの大切さです。学生の頃はそういう人を見て、何だかあまり意味が無いのではと思っていました。実際に自分とその立場になったとき、実はなかなか大切なものなのかなと思いました。皆で集まって仕事以外のことを楽しむという事は、お互い

# 社会人一年生

の親交や信頼関係を深めていきます。そういったことが結局は仕事の上でも何らかの形でプラスになり、活かされていくのではと感じました。これからも職場の人達と一緒に楽しく仕事をしたり遊んだりして早く一人前の社会人になれるように努力していきたいと思っています。



両谷 昌枝 (43期平成3年卒業)

いでしたが、いざ入社してみると、覚えることがたくさんありすぎて、夢中になって覚えていけなくてはいけません。不安や、緊張感などといった気持ちは消え去りました。

湖陵高校を卒業してから四ヶ月間、日本信販に入社してから三ヶ月が、あつという間に過ぎてしまいました。実感も何もないままに会社の見習い期間も終わろうとしています。入社する前は、これからは社会に出ていくんだ、などいろいろなことを考え、期待と不安、その他にも複雑な気持ちでいっぱい

私の会社はクレジット会社という事で、主にカードを取り扱っているわけですが、カードを持ってない方でも、クレジットを組んで分割払いをできるようにするなどといった受付や調査をしています。ですから、お客様とかかわりはもちろんのこと、加盟店、金融機関との対応でも常に気を配り、良い印象を持っていたくことを一

番に考えなければならぬのです。多額の金銭も動いている分、そちらの方でも気をつかい、自分自身の言動に責任を持たなければなりません。どんな職業に就いても責任感をもつという事は、あたりまえです。高校生の時点で、「社会に出るにあたって、何を一番に考えなければいけないか？」という質問をされれば、あっさり「責任感をもつこと」と答える人は多数いるはずですが、私もその一人でしたが、言葉で言うほど、簡単なものじゃないと、自分が社会に出て初めてわかった気がします。

また、社会に出てみると学生との違いを自分自身に知らされたような気がします。具体的に言うとう学生であれば、みんなが同じ勉強を同じスピードでしているわけですが、会社では、個人個人それぞれの担当の分野を迅速に行わなければ、一人ではなく会社全体に迷惑をかけてしまうのです。

これから、湖陵高校を卒業し、就職を考えてる後輩達に、社会に出て働く以上、自分の失敗が会社の責任になり、自分よりも会社にふりかかってくるということ、そして、学生時代のような甘えは、通用しないということ覚えておいて頂きたいと思っております。自分自身の決めた道を後悔せず頑張ってください。

御卒業・御入学の喜びを1枚の写真に……

湖陵・江南・北陽・星園・短大高校他  
市内小中学校卒業アルバム専属作成

株式会社 工藤写真館

工藤寿男(釧中26期)

釧路市南大通5-3-7 TEL 41-5751

駐車場(20台収容)完備

# 事務局だより

釧路の地にもやつと暖かい日が  
続く今日此の頃ですが、同窓会々  
員の皆様におかれましてはご健勝  
にて毎日ご活躍のことと拝察申  
し上げます。

常日頃から同窓会に対するご支  
援、ご協力を賜わり厚くお礼申し  
上げる次第でございます。

さて、平成二年八月十二日、釧路  
キャッスルホテルにおきまして平  
成二年度釧中・釧路湖陵同窓会総  
会並びに懇親会は多くの同窓生が  
参集し盛大に催された所ござい  
ます。月日の経つのは早いものとい  
われませんが、平成三年度の総会  
並びに懇親会が来たる八月十一日  
に開催されることに決定致しまし  
た。去る五月十七日に平成三年度  
の当番幹事期である九期、十九期  
二十九期の三期合同幹事会が開か  
れ、平成三年度総会の準備に入っ  
た所でございます。その後各期が  
お互いに知恵とアイデアを結果  
して企画を練り、七月五日に開催  
された釧中・湖陵合同幹事会の場  
において、まず平成三年八月十一

日の開催日の決定を頂き、その後  
九期那須野代表より総会成功へ向  
けての心強い決意表明があり、十  
九期清水幹事からはユニークな内  
容がたくさん盛り込まれた懇親会  
の内容が発表され、参集された各  
期代表の盛大な拍手を頂き決定さ  
れた所でございます。さらに本年  
度の総会におきまして、昨年大人  
の湖陵祭の時に剣道場の床板で造  
られた通行手形が非常に好評を博  
した所でございますが、本年度は  
旧校舎の玄関の敷石をくだいて工  
夫した石を発売する予定になって  
おります。永年に亘り多くの学生  
そして多くの恩師の方々が一度は  
踏んだことのあるこの石でござい  
ます。同窓生の皆様には一生の思  
い出として、そしてこれから湖陵  
高校を受験しようとする学生達の  
ためには合格祈願のお守りとして、  
お求め頂ければ幸いと存じます。  
近年は各支部での同窓会活動が  
非常に活発になっております。親会  
と致しましては非常に喜ばしく感  
じていると同時に大変心強く思っ

ているところでございます。支部  
総会も三月の帯広を皮切りに四月  
は東京、五月に札幌と次々に開催  
されております。当親会からも応援  
にかけてご一緒させて頂いて  
おりますが、いずれの支部も盛大  
に、そして湖陵の校舎をまぶたに  
描いてそして始終なごやかに和気  
あいあいと皆さん心から楽しんで  
おられました。その姿が非常に印  
象的でございます。

さて、皆様にはすでにご存じのよ  
うに平成三年九月には開校八十年・  
定時制七十周年並びに校舎改築記  
念式典が盛大に挙行されようとし  
ておりますが、これには長内同窓  
会長が総責任者として目下最後の  
仕上げにふんとうしている所でござ  
います。さらにこれが終了した  
その後には我々の念願でありました  
同窓会館の建設に取り組みなければ  
なりません。なんと申しました  
もこの大事業をなすに及ぶには同  
窓会々員の皆様の絶大なるご支援  
ご協力なくしてとうてい完成を見  
ることは出来ません。どうかよろ  
しくお願い申し上げます。

同窓会幹事長 関口 政司

## 編集後記

手前味噌で恐縮ですが、私共が  
編集に携わって一番苦労すること  
は、小説家の方のように文章を考  
えることも、色鉛筆を持って校  
正に汗することでもなく、やはり  
企画に添った同窓生各位に原稿を  
お願いし、その上でご快諾を得ら  
れるかどうかということにあり  
ます。お陰様で今号も皆さんに快  
くご承引をいただき、無事発行の  
運びとなりました。

ありがとうございます。  
さて、当編集委員は皆、神出鬼  
没、いつの日か、皆さんの前に現  
れて寄稿のお願いに参るかと思  
いますが、その時にはぜひ「まかせ  
ておけ」の一言をどうぞよろし  
くお願いします。  
(石川記)

編集委員

長内 宏 遠藤 隆吉  
関口 政司 上岡 信明  
吉井 正 平野清次郎  
石川 和男



釧路のおみやげに！

しあわせをお菓子にのせて



蜂蜜手焼  
せんべい

熊ささ



釧路市南大通2 ☎代41-2121